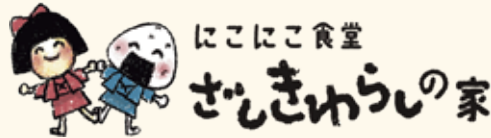




# 子どもも大人もお年寄りもほっとできる居場所 「にこにこ食堂 ざしきわらしの家」

子ども真ん中に みんな笑顔で福くる



管理人 田中信明さんと代表 中村久美子さん

二戸市民などによるボランティアグループ「にこにこ食堂ざしきわらしの家（以下、「にこにこ食堂」と表記）」は、昨年9月に設立され、「子ども真ん中にもややお年寄りの居場所づくりを目指し活動しています。」

代表 中村久美子さん（有限会社志賀煎餅会長）は、県の食品衛生協会二戸支会会長も務めており、さまざまな分野の方とのネットワークをお持ちの方です。

中村さんは、以前、地域のお年寄りたちと「じじばば食堂」を定期的に開いていましたが、拠点となっていた場所が道路の改修工事により利用できなくなったこと、同時期にコロナ感染症が流行し始めたことから、それ以降、開催できずになりました。「お年寄りには、残された時間の中でも青春を味わってもらいたい。そして、「いがったなあ（良かったなあ）」と違って旅立ってもらいたい。その思いがいつも心の中にあつた。」と中村さんは以前の思いを語られました。

管理人を務める田中信明さんは、新聞記者の経歴をお持ちで、7年ほど前に埼玉県から岩手県に移住してきました。食べることは好きだけど料理経験がほとんど

どなかったと話す田中さん。2017年に市の食生活改善推進員養成講座を受講したことで「食」の面白さに気づき、また、昨年8月に二戸市内で開催された「子ども食堂10周年記念」の公開ワークショップ（子どもの居場所ネットワークいわて主催、認定NPO法人全国子ども食堂支援センターむすびえ共催）に参加し、二戸市内に子ども食堂がないという実態を改めて理解したことから、子ども食堂の立ち上げを決意したそうです。

子ども食堂を始めるにも何から手を付けたら良いのかわからなかった田中さんは、食生活改善推進員協議会事務局に相談したところ、「まずは中村久美子さんを口説きなさい。」と中村さんを紹介されました。中村さんを突撃訪問し「子ども食堂をやりたい。」と相談すると、「私もずっとやりたかったのよ。じじばばも子どもも一緒。そういうの待ってたわ。」と意気投合。これがまさに中村さんの思いと田中さんの思いが重なった瞬間でした。

そこからとんとん拍子でお二人の思いが形となっていく、現在、10人程の調理ボランティアと広報・企画を担当する若者ボランティアがメンバーに加わって



令和5年2月19日開催の子ども食堂

ます。その中には、管理栄養士、岩手県食の匠、Webプランナーなどがおり、それぞれの才能を発揮しながら企画、運営に取り組んでいます。これまで、五穀米&白米カレー、けんちん汁、へっちゃまこ団子、雑穀ごはんの煎餅サンドなどといった、地元の食材を生かした「二戸の味」を楽しむことのできるレシピを用意し、食育も意識した子ども食堂を開催しています。

にこにこ食堂では、生活困窮世帯の子どもに限らず、子どもも大人もお年寄りも参加でき、昔の「向こう三軒両隣」といったように、地域で支え合えるぬくもりある居場所づくりを目指し、活動を広げていきます。